細腕なんて言わせない!!

299

震災後は〝フル回転〟でした

「流れに任せて、かな」と話す　神田　まゆみ さん

■神田建築設計事務所　一級建築士
■いわき市好間町中好間字寺台二八ノ九
電話／〇八〇―五五六三―九三四二

「学生時代はあまり勉強をしませんでしたねぇー。だから、これといった目標も…。今はあちこちやっています」と、笑顔を見せつつ語る神田さん

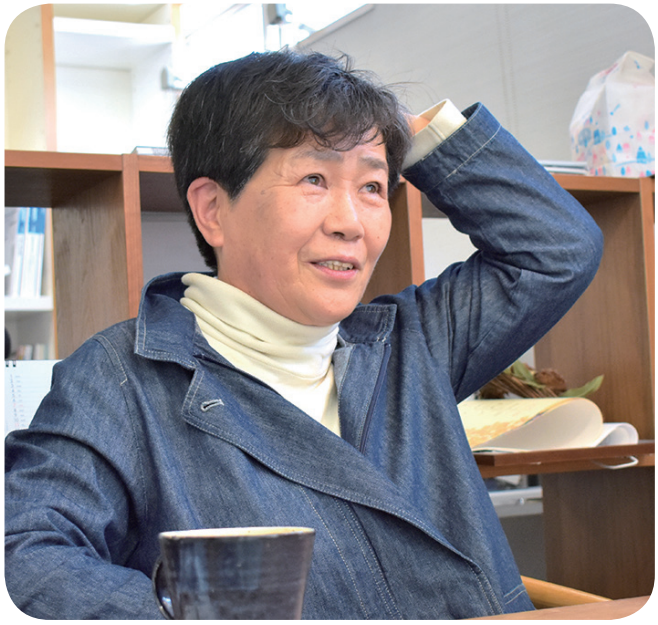
現今と比べ、半世紀ほど前は技術系の女性は極端に少なかった。そんな時代、二十代のころから建築士としていわき市内を中心に鋭意、励んできたのが神田まゆみさん（七一）。もちろん、今も現役バリバリだ。

「娘だから遠くにはやらず、いつまでも手元に置きたかったんでしょうかねぇー。でも、私自身、将来は何をしていいのかまったく定まっていませんでしたし、高校時代は、大学進学のための勉強もしなかったんですよ」

笑いながら語る神田さんは、高校を卒業後、両親を説き伏せ上京、専門学校の製図科で一年間学んでUターンし、平の建設会社に就職。しかし、「お茶くみばかりだったため」一年で退社。職安で職を探そうと出かけたところ、偶然に出会った友人から、平の設計会社で製図関連のトレースのできる人材を探していたことを知り即、訪問、入社。これが、将来歩む道へのきっかけとなった。

建築士を目指して努めていた彼女は、

「公営住宅の管理は誇り」



市の依頼受け被災住宅の査察も実施

同社で実務を学びつつ、二級建築士の資格に挑戦して取り、その後、別な設計会社に移って一級の資格も取得。二十代後半のころだった。当時、女性の資格保持者はそう多くはない時代で、「市内でも女性は数人程度だったと思います」と、神田さん。

公営住宅の管理は誇り

一級建築士の資格を得て、エンジンがかかった後、間もなく独立。これを機に、特に平地区での民間の新築、リフォーム関連の仕事を続ける一方、いわき女性建築士の会の会長を務め、現在は県建築士会いわき支部の理事も歴任。

「仕事としては、民間住宅が主流ですね。自ら受けることもあるし、建築士会の仲間の人からの要請も。また、高齢者からのリフォームなどの場合は平屋が多いのですが、例えば水害から身を守るため、はしごを伝ってすぐ上に逃げられる中二階のような部屋を作るとか」

そんな中、地元小川の復興住宅の建設コンペの際は、「仲間の皆さんとこの仕事に携わったのですが、負けまして…。残念でした」と、思い出して苦笑い。

これまでの日々の業務を語る神田さん、淡々と無理なく仕事をこなすのがスタンスのようだが、あの大震災後は他の建築士会の仲間とともに「フル回転」の時もあった。

当局からの依頼などで小名浜、薄磯地区の災害公営住宅の管理を任された彼女は、早朝のコンクリート打ち、鉄筋、上下水場の監視など建造に関するあらゆる検査を五年間にわたってチェック、「私、あの時の仕事を誇りに思っているんですよ」と、胸を張る。

今は、大雨や地震などの自然災害時の際、市や建築士会からの依頼を受け、被災した住宅の現場を訪れ、査察などを行い、データをまとめ、その報告書を当局に提出という作業をこなしている。

仕事に対しひたむきさを垣間見せる神田さんは、「仕事も人生も、気負わず、流れに任せて、です」と、心境を語った後、世の中の諸情勢に対しては「社会、政治にもあまり期待できないと思うし、あきらめムードが強い気がするわねェー」と、やんわり続けていた。

プロフィル

かんだ・まゆみ

1949年11月30日生まれ、小川町出身。磐城女子（現・磐城桜が丘）高校を卒業後、東京の専門学校の製図科で学ぶ。1年後、地元の設計会社で2級、1級の建築士の資格取得後、独り立ち。「休日は、ボーッとしたり、グルメの友人と出かけておいしいものを食べたり、かなー」。得意な料理は、「時間もなく冷凍ものが…」。O型

※このコーナーは隔月掲載です。

■お知らせ＝このコーナーでは、自ら選んだ仕事に、あるいはその人生においてひた向きに励み、努めている女性を紹介しています。情報をお寄せください。

有限会社 小野美術 営業時間 午前10時～午後6時（最終日は午後5時閉場）
いわき市平字中町22番地の2 Kビル1F ☎0246-35-0383
HP:http://onobijutsu.jp e-mail:onobijutsu@sirius.ocn.ne.jp